NEWS №112
OCTOBER 2021
WASEDA ARCHITECTURE

巻頭言

Waseda Architecture, ブランドの醸成へ

亀井忠夫　稲門建築会会長、日建設計代表取締役会長（苗S52・院S56）

稲門建築会は、早稲田大学建築学科予科が開設された1909年（明治42年）に創立され、110年を超える歴史を持ちます。

早稲田建築の卒業者数は多く、建築分野のみならず、多様な分野に進出しています。建築分野に限っても、設計、施工、メーカー、事業者、官公庁、教育、研究など様々な立場で活躍されています。国内だけではなく世界に羽ばたき、また海外からの留学生が自国に戻って活躍されてもいます。この積み重ねられた総力には計り知れないものがあると感じます。他大学では見られない潜在的なネットワークをもち、また継続的にしっかりとした活動を行なってきた同窓会組織は国内では稀有な存在ではないかと思います。

2019年末からCOVID-19に見舞われ、私たちの社会全体が試されています。誰にも明確な答はなく、その状況下で今まで抱えていた問題が浮き彫りになったり、社会的分断が深まったり、逆に新しい価値観の芽生えが出てきたりしています。このような時、建築・都市に関わる私たちの役割は重要です。今こそ、稲門建築会から社会に向けて発信し、その潜在的な力を顕在化していくチャンスです。早稲田は、群れを成すのを嫌う気風があり、それは大切なことだと私も思います。なぜなら、多様性ということが生き延びる力になるからです。相手の価値観を理解し、そして更なる高みを互いに目指す。敢えて早稲田ということを語らずとも、結果的に早稲田が背後にあった、ということでも良いと思います。

COVID-19の影響により昨年から活動のありかたも変化してきましたが、オンラインのネットワーク力を活用し、距離・時間の制約を超えて今まで以上に地方都市や海外にいらっしゃる方々ともフラットにコンタクトできるようになりましたので、さらに活動を活性化していきたいと思います。また、社会における、建築に関わる職能のプレゼンスを上げていくために、建築界外への働きかけも重要かと思っております。

じんわりと、しかし力強く、社会に向けて発信し、早稲田建築 Waseda Architecture のブランドをグローバルに醸成してまいりましょう。

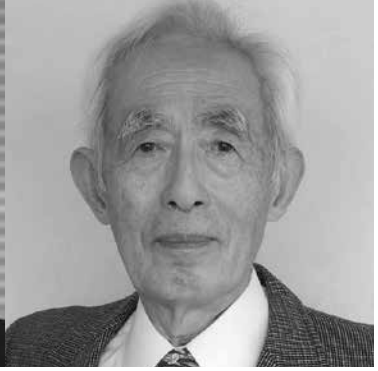
1――〔巻頭言〕Waseda Architecture、ブランドの醸成へ――亀井忠夫
2――〔稲門の風 十五〕第24回稲門建築会特別功労賞発表／新任教員の紹介
3――〔報告〕安部良氏日本建築学会作品賞、 田辺新一教授日本建築学会会長、2021年度春の大会・通常総会ほか
4–5――〔特集〕アンコール遺跡の保存と意義――中川 武
6–7――2021年度職域幹事一覧／ 2020年度決算報告 ／ 2020年度会費＆維持費納入者ほか
8――2021年度 稲門建築会役員一覧／主な会務報告／訃報ほか

合同クラス会、11月6日（土）開催！

「早稲田建築みらいびと応援コンペ」公開審査会　詳細は https://www.arch.waseda.ac.jp/wa/5819

稲門の風　十五回

第二十四回稲門建築会 特別功労賞発表



選考理由（抜粋）

特別功労賞（業績）

星野和弘（ほしの・かずひろ／苗S32）　ホシノ国際学際研究所 所長

１９５７年に電電公社に入社。海外業務での辛苦の経験から、日本で最初の海外建設業務の実践向き手引書として、１９７８年に「建築英語事典」を出版する。同書は１９８０年にライプチヒ国際出版コンクールで銀賞を受賞。１９８８年の「和英建築用語表現辞典」と共に、建築海外業務専門家の必携図書となるなど、多数の著書・講演を通して、海外で活躍できる人材の育成に大きく貢献している。

特別功労賞（業績）

Sompong Chintawongvanich（ソンポン・チンタウォンワニッチ／苗S48）株式会社タイ大林 取締役副会長

１９７６年にタイ大林に入社、２００３年に社長。日本からの技術移転、情報技術活用を推進し、同社をタイの官民・国際資本を主な顧客とする建設最大手に育てあげた。更に自社トレーニングセンターを設立し、関連企業の技能工や学生の研修を通じてタイの建築界の幅広い人材育成に貢献し、ラムカヘン大学から名誉学位を授与される等、高く評価されている。

特別功労賞（奨励）

本橋 仁（もとはし・じん／苗H21・院H23・博H26）京都国立近代美術館特定研究員

学科助手として在籍時より、旧本庄商業銀行煉瓦倉庫保存のための啓蒙活動から再生設計に関わる事業を遂行する。２０１８年度UNESCOアジア太平洋文化遺産保全功績賞、２０１９年度日本建築学会作品選奨を受賞する。直近では２０２０年度に「分離派建築会１００年 建築は芸術か？」をキュレーションするなど、建築キュレーターとしての活躍が期待される。

報告

新任教員の紹介

宮本佳明 教授
みやもと・かつひろ

１９６１年兵庫県に生まれ／１９８４年東京大学工学部建築学科卒業／１９８７年同大学院修士課程修了／１９８８年アトリエ第５建築界設立／２００２年設計組織を宮本佳明建築設計事務所に改組／大阪芸術大学助教授、大阪市立大学大学院教授などを歴任

２０２１年４月から建築意匠論研究室に着任いたしました。場所に対する人々の記憶を大切に扱いながら、同時に私たちを取り巻く様々な制度や習慣に対して柔軟に再解釈を試みることによって、新しい建築や空間を創造することを目指しています。どうぞよろしくお願いいたします。

吉中 進 教授
よしなか・すすむ

１９７０年生まれ／１９９３年早稲田大学卒業／１９９５年東京大学大学院修士課程修了／１９９５～２００４年鹿島建設株式会社／２００５～２００８年東京大学生産技術研究所助手・助教／２００７年東京大学博士（工学）／２００８～２０２１年大阪市立大学特任講師・准教授

２０２１年４月より建築学科に着任いたしました。専門はシェル・空間構造です。多様化・複雑化する災害に対するシェルターの役目を果たすとともに新しい形態を創造するための技術開発に挑戦していきます。

伯耆原智世 専任講師
ほうきばら・ともよ

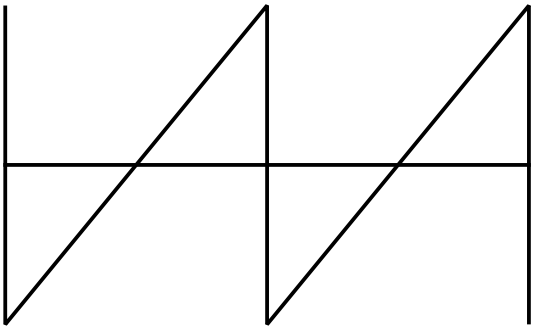
１９９０年名古屋生まれ／２０１３年早稲田大学建築学科卒業、２０１５年同大学院修了（長谷見雄二研究室）／２０１５～２０２１年３月まで竹中工務店設計本部、設計部勤務／２０２０年博士（工学）取得／２０２１年４月より、早稲田大学専任講師

２０２１年度より建築学科に着任いたしました。耐火木造に関する研究で博士学位を取得しており、火災安全を中心に防災研究を専門としています。刻々と変化する社会環境や、これまで見過ごされてきた防災リスクに対して、都市や建築の安全向上・維持に取り組んでいく所存です。

西川日満里 芸術学校非常勤講師
さいかわ・ひまり

２０１０年早稲田大学芸術学校卒業／２０１２年横浜国立大学建築都市スクールY・GSA修了／２０１７～２０２１年早稲田大学芸術学校非常勤講師／２０１３年～ツバメアーキテクツ

２０２１年より芸術学校に着任しました。空間の設計をする「DESIGN」と、空間が成立する前の枠組みや完成後の展開を思考し、リサーチを行う「LAB」の二軸を掲げて活動を行っています。二つを循環させるようにプロジェクトに取り組むことで、建築の新しいバランスとそこにあるべき空間を考えていきます。



報告

安部良氏 日本建築学会作品賞

2021年度の日本建築学会賞（作品）に安部良（苗H02）氏設計の「島キッチン」が選出されました。「島キッチン」は、2010年の第1回瀬戸内国際芸術祭の参加作品として香川県豊島、唐櫃の岡集落に設置されましたが、以降、地域に根づきながら育てられ、継続的にメンテナンスや増改築を繰り返し、2019年、恒久的な建築へとリニューアルされました。空間としての価値にとどまることなく、地域との関わりをつくりながら、仮設的な状態から地域に求められる建築へと変貌を遂げる過程そのものが評価されたものと捉えられます。

写真：島キッチン。撮影：堀田貞雄

石田航星准教授 BIM連続レクチュア

早稲田大学理工学術院総合研究所、建築学研究所の主催で「第2回BIMによる建築生産と施設運用の高度化に関するシンポジウム」が開催されました。このシンポジウムは本学の石田航星准教授、高口洋人教授が企画されたもので、公的発注者、不動産所有者や施工者などがBIMを始めとした情報技術をどのように活用しているのかについて講演するとともに、デジタル・トランスフォーメーションの肝となる他分野との共同作業について議論を行うことを目的としてオンサイト／オンラインのハイブリッドで開催されました。

海外WEBセミナー 講師：南雲要輔氏

稲門建築会主催で「英国のアーキテクトと設計業務／英国建築デザインの動向」海外WEBセミナーが開催されました。コロナ禍で海外渡航もままならない状況を逆手にとって、海外で活躍されている日本人建築家のお話をうかがう企画です。今回、英国のホプキンス・アーキテクツで設計活動をされている南雲要輔氏を講師にお招きしました。同ファームは、高度なテクノロジーを発揮した公共施設や歴史的建築物の保存再生の第一人者として、突出した存在感を示すロンドンを拠点とした設計事務所です。設計業務、デザイン動向など、学生のみならず社会人の方々にも大変参考になるセミナーでした。

建築施工法Ⅱ、実務経験者による連続講演

学部3年生の春季講義である建築施工法Ⅱでは、授業の後半にあたる2021年6月22日、29日、7月6日、13日に、ゼネコンの現場担当者の方々による計4回の講義が行なわれました。学年問わず聴講することができるもので、国内事例を元に建築プロジェクトにおける管理や設計の役割をお伝えいただき、職長との連携や運営計画といった、現場に携わる方々ならではの内容でした。感染症対策を行ないながら対面講義を行なったこともあり、臨場感のある授業を受けることができ、活発な議論が行なわれました。

田辺新一教授 日本建築学会会長

本学の田辺先生が日本建築学会会長に就任されました。本学生へのメッセージには、学会は36000名を超える会員により、様々な分野での活動が行われていること、論文集が完全電子化、Openアクセスになったことで会員は無料で出版後すぐに閲覧できるようになったことが案内されました。加えて、SDGsや脱炭素、レジリエンスに関して活動を行っていきたい旨、表明されています。また、学会で発表されている所信には、ウィズ・アフターコロナ時代における新しい建築の発展を目指すものとして、4つのテーマが謳われています。

古谷誠章教授 東京建築士会会長

本学の古谷先生が、一般社団法人 東京建築士会の会長に就任されました。士会で表明されているご挨拶では、「改革の成果を継承し、建築士の職能を社会に開く」ことを第一に掲げ、「建築士は実践に裏付けられた確固たる技術力と豊かな人間性に裏付けられた想像力によって、人々の暮らす生活環境に対し常によりよいものとするよう心がけねばならないもの」としています。従来の士会の成果を継承しつつ、個としての研鑽はもちろんのこと、委員活動などを通して、組織として社会における職能の理解を一層深められるようにしたい、との思いが語られました。

村松映一氏逝去

村松映一氏（享年83歳、第20代稲門建築会会長）が8月2日に慢性腎不全のためご逝去されました。葬儀は8月6日にご家族で行われました。早稲田建築アーカイブスは村松元会長が提唱され2010年にスタートし2021年に映像と音声による貴重な記録が完成しました。謹んでお悔やみ申し上げます。

濱中直樹（広報委員／苗H04）、池田瑚子、上原のぞみ、竹内將人、野田夢乃（学生委員）

二〇二一年度春の大会・通常総会

昨年から猛威をふるう新型コロナウイルスの感染拡大は、未だ終息の見通しが立たない中、稲門建築会の活動も現在までのところ対面形式で行うことができず、今年の通常総会についてもオンラインで開催されました。

2021年度稲門建築会通常総会は、5月28日（金）に開催され、大内会長の挨拶に始まり、定刻時出席者数52名、委任状提出者数365名の合計417名で定足数に達したことを確認しました。その上で、2020年度活動報告、収支決算報告、会計ならびに業務監査報告、さらに2021年度役員選任、活動基本方針、収支予算のいずれについても、全員の賛成で可決されました。議事終了後に田辺教授より学園の近況報告があり、学園人事などの発表がありました。それに引き続き特別功労賞受賞者の発表と各受賞者からのコメントをいただきました。その後、任期満了により大内会長から亀井新会長にバトンが渡され、新会長の抱負と、大内会長への感謝の言葉で総会が締めくくられました。

続いて、コロナ禍のため昨年より延期となっていた、建築家・内藤廣先生と全国建設業協同組合連合会会長・群馬県建設業協会会長の青柳剛先生による特別講演が行われました。「早稲田建築の果たすべき役割」をテーマに、前半はお二人それぞれからお話をいただき、後半は司会として古谷誠章先生が加わっての対談、話は学生時代にまで遡りました。

残念ながら会場は関係者のみで、200人の視聴者とはネットでつながっている状況ではありましたが、早稲田建築の一体感をリアルに感じられた内容になりました。来年はぜひリアルな集まりでと思います。

齋藤俊一郎（総務委員長／苗H02・院H04）

特集 アンコール遺跡の保存と意義

中川 武
明治村館長、早稲田大学理工学術院名誉教授（苗S42・院S44・博S47）

ＪＳＡ（日本国政府アンコール遺跡救済チーム）プロジェクトの準備調査のために私が初めてカンボジア、アンコール遺跡群を見て回ったのは１９９２年10月。30年が経つた。戦いはまだ済んではいないのに、日は暮れなずもうとしているかにも見える、この微妙さの中で、この際敢えて、これまでを振り返り、シンプルに要点をまとめてみたい。というのは、２０１９年12月に、ＪＳＡの各専門分野におけるこれまでの成果をまとめ、「アンコールから世界を見つめて」という報告会を早大理工で行い、コロナ禍パンデミックの中で敢えて、今後の学術的、実践的課題を鮮明にした報告書の刊行を本年末に向けて準備しているところでもあるので、これらの活動の意義を自他ともに明確にしておきたいからである。

1　アンコール遺跡とは

まず「バイヨン尊顔塔群」の写真を見て欲しい（本頁右下）。初めてバイヨンを見た時強い感銘を受けた。それを掘り下げるためにこの30年があったのではと思えるほど、今では私にとっての建築を探究する旅の到達点の一つになっているように思われてくる。アンコール遺跡は、7～9世紀、プレ、アンコールのサンボー、プレイ、クック遺跡をはじめとして、現在のアンコール地域を中心に、12～13世紀には東南アジア周辺に広い版図を築いており、当然、地域と時代差の変容があるが、どこか共通の特徴があるのがアンコール遺跡の特色かもしれない。周辺環境と応答しながら、重厚な存在感を保っている。ジャングルの中では木漏れ日を突き破るように、あるいは広い空を背景にしたときは、丁度このバイヨン尊顔塔群のように、内に凝縮した想いを遥か遠くまで解き放つかのように屹立している。このような建築のあり方を、私は建築の「せい」の高さと考えてきた。建築は、公私や実用性や歴史さえも超えて、そして「共同的＝相互的な」という存在形式から逃れられない限り、単なる慰安や癒やしではなく自他への励みを必要としているのではないか。それが「せい」の高さである。パルテノンでも法隆寺でも、コルビュジエや丹下にも、そして小さな幻庵（石山修武）の一室にも、そしてアンコール遺跡からバイヨンにまで一貫して通底するのは建築の「せい」の高さである。

私たちはアンコール遺跡について丹念に調査し、分析を進めてきた。バイヨンは、それこそ１９８０年代中頃のスリランカ調査からはじめたアジア的建築を求めてきた旅の一つの集大成といえるかもしれない。思い切りよく断言すれば、建物が存在する場所を象徴する伽藍の中心線と多くが左右対象形式である建築群の中心軸をズラす技術、即ち区別しつつ共存調和させるという、広く文化にまで馴染む建築形式であったといえよう。

言うまでもなく建築は新しい価値や権力を象徴する。一方建物の敷地は、とりわけ記念建築のそれは、自然の力や歴史の因縁が集中する聖なる場所を意味する。この両者の微妙な関係性を調整する方法がどのようにして生まれたのだろうか。文明文化の中心から周辺への影響は、親がコケれば子もコケるようなものだが、時空間的にそこからさらにクッションを置いた亜周辺の場合、そこでは選択的影響、つまりイイトコ取りが可能になる。中国の中心に対する日本やベトナム中部以南の文化はあきらかに亜周辺性を特色とするが、インドに対するアンコールは亜周辺性が際立っている。ジャングルの中に埋もれながら、開放的で、存在感の強い「せい」の高さはこうして生成し、受け継がれてきたと考えられる。

2　アンコール遺跡の保存

この問題で先ず直面するのはコンクリート問題である。一応修復されているように見える遺構もほぼコンクリートで固められている。材料と施

工技術の限界、そして植民地であったという制約のために修理箇所の耐用年数は短く、無残な惨状を晒しているものも多い。20世紀初頭より、アンコール遺跡の保存に先進的に携わってきたフランスは、アンコールワットやバイヨンのレプリカを万国博覧会のパビリオンに多く活用しており、もとよりアンコール遺跡への関心も評価も高勝だし、評価は今も高い。形態が精神を表現するという新古典主義的な価値観が彼の国には今も根づいている。木造日本建築の深い軒下の空間の佇まいや気配は、同寸、同構法の鉄骨やコンクリートで復元されたものとは違うことを、私たちは直感することができる。建築の価値が、全ての技術的な応答の末に行き着くのがこの佇まいや気配だとすれば、石積みとはいえ安易にコンクリートに代替えするのは避けて然るべきであろう。

さらにJSAが伝統的工法の復元にこだわってきた理由は、アンコール遺跡が規模を拡大し、高くするためにはテラス（基壇基礎）を繋げ、重ねるしかない不可欠な手法であり、その内部構造が版築土層の直接基礎によっているからである。特にバイヨンのそれは基礎構造の奇跡かもしれない。私たちJSAは10年以上の歳月をかけて、考古学、ボウリング、電気調査を積み重ね、この奇跡に近づきつつある。人類史の謎とも言える奇跡を解明し尽くして、そのありのままの姿を恒久的に保存したいと願っている。

3　保存の意義

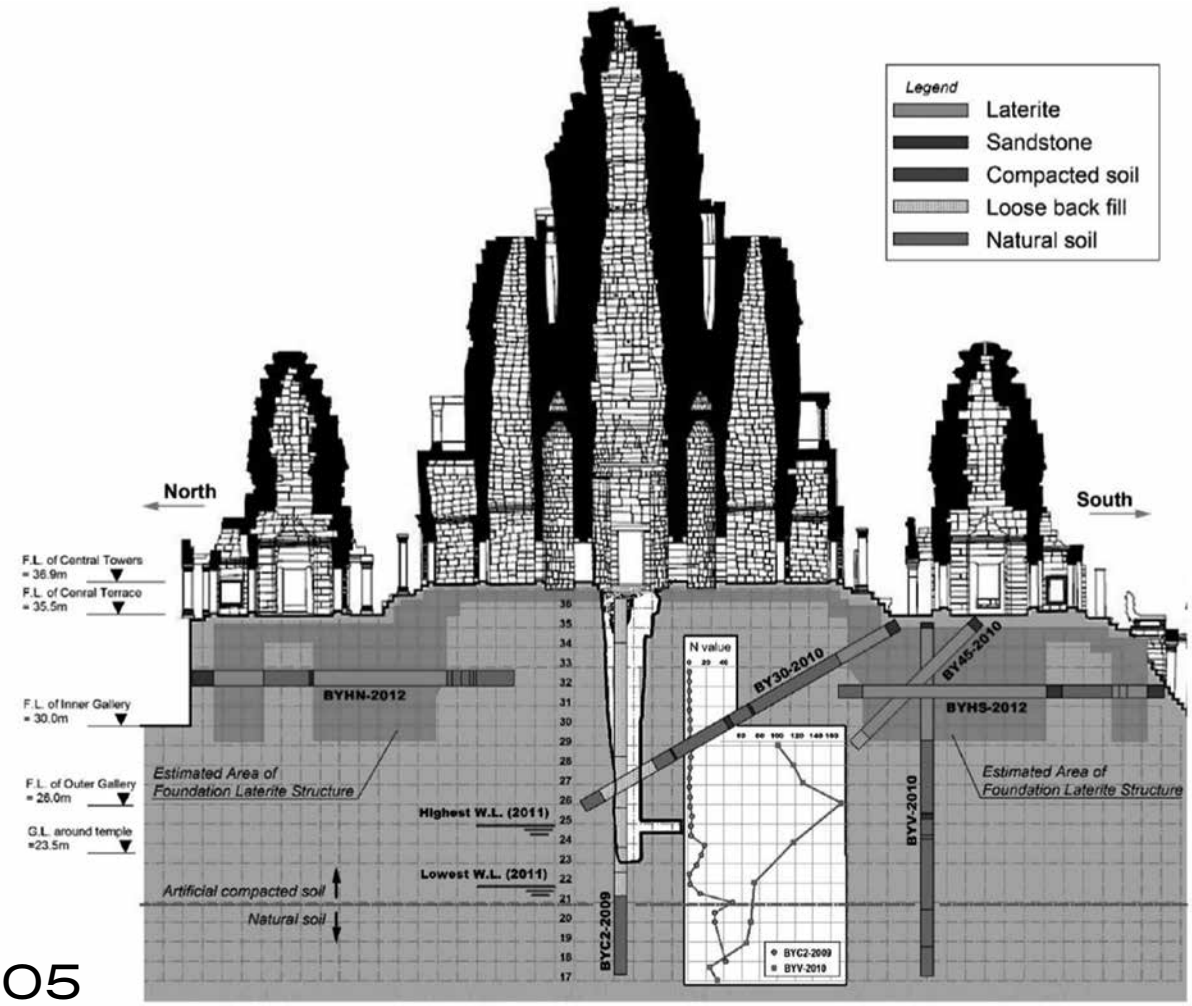
文化遺産の保存は、劣化、崩壊要因を科学的に解明し、遺構のオーセンティックな価値を最大限保存し、最小限の介入によるサステイナブルな修復工事、記録の公開、人材育成が3本柱である。

日本の近代化は、西洋からの基礎的知識と技術の体系的な導入によってささえられた。ようやく日本が途上国に乗り出す時が来たということだと思うが、この時、援助される側が、将来自立するために役に立つ基礎性や原理性を備えているかどうかが厳しく問われるだろうと考えてきた。意義は先ずそこで判断されるだろう。

もう一つは、アンコール遺跡保存の国際協力はそれを通してカンボジア社会の復興と和平に寄与しようとするもので、日本政府の主導によるものであった。私の個人的な見解であるが、その点では、10年間は成功だったと思う。ユネスコはその流れにのり、アンコールの国際的保存協力システムを中東和平に展開することを目論んだ。中東はカンボジアほど甘くはなかっただけでなく、アンコールが好きなフランスに対して、日本が本格的に粘り強く続ける根拠を見い出せないまま、実利的効用主義のより厳しくなる戦争と大衆民主社会の寄る辺なさの中で、それなりに必死な、カンボジア、日本、世界の若者たち（もちろん大人も含めて）の指針とアンコール遺跡の「せい」の高さが響き合わなくなっているようにも見える。

ではどうするか。この夏テレビでオリンピックを見るしかなかったが、印象深かったのは、サッカーの久保選手が、サッカーしかやってこなかった中でこんな悔しいことは無いと泣き弱っていた場面と、銅メダルをとった喜びと感謝を聞き出したいレポーターに対して、何人かが、金メダルを取るつもりだったので嬉しくないと答えていたことである。

私がこのプロジェクトを始めた時、早稲田建築学科の先輩先生方からとても励まされた。今も多くの学生、OBも含めて、専門家や先生方が支えてくださっている。私はこの背景に、ワセダとアジアの無形の繋がりをいつも感じていた。私だけのものかもしれないし、どこまでいけるのかもわからないが、私たちは誰もが心の中に理想を抱いている。それはやはり金メダルであって、銅でもよい、という話ではない。仰ぐは同じ理想の光を、私は今もバイヨンの「せい」の高さに見ている。



右頁：「バイヨン尊顔塔群」該当候補　©JSA
左：「バイヨン中央基壇基礎版築土層ボウリング調査略図」該当候補　©JSA

合同クラス会二〇二一

早稲田建築みらいびと応援コンペ「求む！建築を『拡張』するプロジェクト」

早稲田建築合同クラス会では早稲田建築の卒業生が毎年集まり、会員相互の親睦を図ってきました。しかし昨年からのコロナ禍により従来のような形で集まることが難しい今、この時期だからこそできる合同クラス会のあり方を考えました。それは「卒業生が母校・後輩を支援するかたち」です。

１１０年を超える歴史を持つ稲門建築会の会員は約２７０００名（故人を含む）を数え、建築分野のみならず各界で活躍している人たちがたくさんいます。そして現役学生を含めこれからの活躍が期待される多くの人たちもいます。この両者を結びつけ、卒業生が未来をつくる人材を「早稲田建築みらいびと」として応援するのがこのコンペ企画です。

募集内容：従来の建築の概念に縛られない、「建築」を拡張するプロジェクトを事業計画として提案して下さい。最優秀および優秀として選出された提案に対しては、応募者が要求する支援（経済的、技術的、人脈的など）を実施し、支援結果の報告を求める予定です。

公開審査会：11月6日（土）会場：西早稲田キャンパス&オンライン（詳細はhttps://www.arch.waseda.ac.jp/wa/5819）

卒業生の皆さまには是非この趣旨にご賛同いただき支援を、また我こそが「早稲田建築みらいびと」と思う方には積極的な応募をお願いします。

田中智之（実行委員長／苗Ｈ06・院Ｈ08・博Ｈ11）

二〇二一年度第一回職域幹事会報告

9月10日夜、２０２１年度第１回職域幹事会が開催されました。コロナ禍の中、今年度の稲門建築会各会議は昨年度と同様にオンラインで開催されており、今回の職域幹事会は第２回理事会と同日開催で行ったものです。オンライン開催の良い点は、ネット接続ができればどこからでも参加できることであり、当日は参加職域43、参加者合計75名と例年よりも多数の職域幹事の皆さまにご参加いただきました。

主な報告事項の「ＯＢＯＧによる仕事紹介」については、残念ながら今年度もオンラインでの開催となりますが、昨年度の経験も踏まえて更に良いものとなるよう検討を重ねております。

第３部の懇親会は、第１部の理事会、第２部の職域幹事会よりも互いの距離感が少し縮まった雰囲気の中で約20名の方にご参加いただき、近況や「ＯＢＯＧによる仕事紹介」への貴重なご意見などをうかがうことができて、非常に有意義でした。

会の最後では、対面形式でも恒例となっていた後藤研究室、鈴木翔太郎さんのエールのもと、参加者で校歌斉唱を行い、例年と変わらぬ連帯感を感じることができました。海外の大学にはあっても日本の大学では稀な、学生から幅広い世代の卒業生が自然に交流できる場である稲門建築会の良さについてお話をうかがいましたが、まさにそれを実感した夜でした。

飯岡方春（会員委員長／苗Ｓ63）

二〇二一年度職域幹事一覧

永澤明彦（苗Ｈ04）㈱アール・アイ・エー
梶山徹（苗Ｈ07）㈱淺沼組
池田剛生（苗Ｓ61）旭化成ホームズ㈱
福田英義（苗Ｈ03）㈱梓設計
明珍邦彦（苗Ｓ50）㈱アルモ設計
山崎和彦（苗Ｓ60）㈱安藤・間
福地拓磨（苗Ｈ09）㈱石本建築事務所
園田陽一（苗Ｓ58）伊藤忠商事㈱
宇塚幸生（苗Ｓ50）㈱入江三宅設計事務所
海谷真理（苗Ｈ16）㈱インデックスコンサルティング
中西恭子（苗Ｈ07）㈱ＮＴＴファシリティーズ
藤木洋徳（苗Ｈ16）大阪ガス㈱
堀池隆弥（苗Ｈ05）㈱大林組
床圭司（苗Ｈ07）㈱奥村組
佐々優子（苗Ｈ03）㈱オリエンタルコンサルタンツグローバル
石川麻莉（苗Ｈ27）㈱オリバー
細田正紀（苗Ｈ14）鹿島建設㈱
鈴木裕（苗Ｓ48）㈱観光企画設計社
李祥準（博Ｈ21）関東学院大学
境田康良（苗Ｈ12）北野建設㈱
高木朋也（苗Ｓ62）㈱熊谷組
川井隆夫（苗Ｈ03）㈱久米設計
岡田直久（苗Ｈ15）京成電鉄㈱
富樫英介（苗Ｈ16）工学院大学
安藤靖人（苗Ｈ06）㈱構造計画研究所
関谷英一（苗Ｈ10）㈱鴻池組
原英嗣（苗Ｈ09）国士舘大学
才木潤（苗Ｈ05）国土交通省
山崎直宏（苗Ｓ53）古久根建設㈱
木下修文（苗Ｈ12）㈱コスモスイニシア
岡本光正（苗Ｈ05）五洋建設㈱
杉山幸司（苗Ｈ20）ザイマックス
今春大介（院Ｈ10）㈱坂倉建築研究所
齊藤直弥（苗Ｈ15）サッポロビールグループ
牧野創太（苗Ｈ26）佐藤工業㈱
龍治男（苗Ｈ04）㈱佐藤総合計画
長澤広学（苗Ｈ17）三機工業㈱
齋藤亜紀子（苗Ｈ23）ジーク㈱
岡田大海（苗Ｈ12）㈱ＪＲ東日本建築設計事務所
中川佳（苗Ｈ12）ＪＦＥスチール㈱
村上公哉（苗Ｓ60）芝浦工業大学
重松英幸（苗Ｈ16）清水建設㈱
田村圭介（苗Ｈ05）昭和女子大学
金子寛明（苗Ｓ58）新菱冷熱工業㈱
赤坂英司（苗Ｈ01）住友不動産㈱
田邊将（苗Ｈ18）住友林業㈱
島田達哉（苗Ｓ59）西武建設㈱
堂城直人（苗Ｈ14）積水ハウス㈱
井奥貢（苗Ｓ59）錢高組
渡辺勇太（苗Ｈ19）第一生命保険㈱
堀川斉之（芽Ｈ11）大成建設㈱
羽毛田真也（苗Ｈ20）大和ハウス工業㈱
守屋寛之（苗Ｈ08）高砂熱学工業㈱
北川誉紀（芽Ｈ18）髙松建設㈱
柴山剛（苗Ｈ07）㈱竹中工務店
小池奈央（苗Ｈ16）㈱丹青社
有村亮（苗Ｈ14）中央日本土地建物㈱
高橋英治（苗Ｓ60）千代田化工建設㈱
椎名明良（苗Ｓ54）鉄建建設㈱
内藤純（苗Ｓ60）㈱電通
中野淳太（苗Ｈ09）東海大学
入川智行（苗Ｈ18）東海旅客鉄道㈱
由井聡（苗Ｈ05）東急㈱
長谷川剛（苗Ｈ08）東急建設㈱
上治吾郎（苗Ｈ08）㈱東急設計コンサルタント
江原清仁（苗Ｈ11）東急不動産㈱
奥田篤（苗Ｈ10）東京ガス㈱
青山周吾（苗Ｈ15）東京建物㈱
市丸隼人（苗Ｈ17）東京電力グループ
石塚正浩（苗Ｈ24）東京都
岩下剛（苗Ｓ62）東京都市大学
小野緋呂美（苗Ｈ30）東電設計㈱
山田孝司（苗Ｓ57）㈱都市デザイン
縄田浩（苗Ｓ61）戸田建設㈱
和田和輝（苗Ｈ28）飛島建設㈱
橋本史生（苗Ｈ24）成田国際空港㈱
田原潤一（苗Ｈ16）西日本旅客鉄道㈱
竹内章博（苗Ｈ08）西松建設㈱
佐藤哲也（苗Ｈ27）日揮㈱
伊藤浩士（苗Ｈ19）㈱日建設計
石田直史（苗Ｓ62）㈱日建ハウジングシステム
寺内浩太（院Ｈ31）日鉄エンジニアリング㈱
樋上岳（苗Ｈ03）㈱ＮＩＰＰＯ
増田開（苗Ｈ26）日本製鉄㈱
切敷香澄（苗Ｈ03）日本郵政㈱
古市淳（苗Ｈ18）日本環境技研㈱
丸谷翔平（苗Ｈ26）㈱日本設計
斉藤忍（苗Ｓ60）㈱乃村工藝社
佐藤亮太（苗Ｈ23）野村不動産㈱
宇佐美雅俊（苗Ｈ19）㈱博報堂
川本哲也（苗Ｈ07）パシフィックコンサルタンツ㈱
長崎知彦（苗Ｈ21）㈱長谷工コーポレーション
古本一貴（苗Ｈ27）東日本旅客鉄道㈱
大和祐也（苗Ｈ29）㈱藤木工務店
金田剛（苗Ｈ01）㈱フジタ
鈴木章夫（苗Ｓ58）前田建設工業㈱
山﨑敏幸（苗Ｈ04）㈱松田平田設計
長谷川恵美（苗Ｈ12）ミサワホーム㈱
松崎真豊（苗Ｓ63）三井住友建設㈱
朝賀稔（苗Ｈ03）三井物産㈱
政本悠紀（苗Ｈ28）三井不動産㈱
山下将司（苗Ｈ12）三井ホーム㈱
吉川朗（苗Ｓ60）三菱地所㈱
石橋洋二（苗Ｈ09）㈱三菱地所設計
中村匠（苗Ｈ25）三菱地所レジデンス㈱
小川悠介（苗Ｈ21）三菱商事㈱
横山聡（苗Ｈ07）㈱三菱総合研究所
玉置健治（苗Ｈ09）森トラスト㈱
貝島雄太（苗Ｈ09）森ビル㈱
熊谷泰彦（苗Ｈ05）㈱安井建築設計事務所
三浦正徳（苗Ｈ12）㈱山下設計
渡辺啓太（苗Ｈ28）㈱山下ＰＭＣ
西田誠司（苗Ｈ02）横浜市
松本翔（苗Ｈ24）㈱類設計室
藤井由理（苗Ｈ09）早稲田大学

2020年度末会費納入率一覧

在籍会員数別納入率

会員数50名以上――上位10社

会社名	会員数＊	納入率
大成建設㈱	279	34.1%
㈱三菱地所設計	62	33.9%
㈱日建設計	139	33.8%
早稲田大学	71	33.8%
㈱ＮＴＴファシリティーズ	62	32.3%
戸田建設㈱	83	25.3%
㈱日本設計	84	25.0%
清水建設㈱	252	22.2%
鹿島建設㈱	234	21.8%
㈱大林組	155	21.3%
15～49名――上位17社		
㈱松田平田設計	20	60.0%
㈱山下設計	43	53.5%
㈱梓設計	34	47.1%
㈱JR東日本建築設計事務所	18	38.9%
国土交通省	26	38.5%
三井住友建設㈱	32	37.5%
㈱久米設計	40	32.5%
三菱地所㈱	28	32.1%
横浜市	25	32.0%
前田建設工業㈱	32	31.3%
㈱石本建築事務所	16	31.3%
東急建設㈱	20	30.0%
東京建物㈱	20	30.0%
東京電力グループ	26	26.9%
旭化成ホームズ㈱	36	25.0%
東急㈱	20	25.0%
森トラスト㈱	16	25.0%
5～14名――上位15社		
髙松建設㈱	2	100.0%
㈱藤木工務店	2	100.0%
㈱オリバー	1	100.0%
新菱冷熱工業㈱	1	100.0%
西松建設㈱	7	71.4%
工学院大学	6	66.7%
㈱鴻池組	3	66.7%
日鉄エンジニアリング㈱	7	57.1%
㈱佐藤総合計画	12	50.0%
㈱類設計室	8	50.0%
三菱地所レジデンス㈱	6	50.0%
㈱都市デザイン	4	50.0%
㈱アルモ設計	2	50.0%
東海旅客鉄道㈱	9	44.4%
佐藤工業㈱	10	40.0%

＊通信可能な会員数

2020年度決算報告書

自　2020年4月 1日
至　2021年3月31日

貸借対照表

単位：円

資産の部

勘定科目	金額	
現　　金	848,322	
振替貯金	10,013,264	
普通預金	10,235,545	
みずほ銀行		2,456,452
りそな銀行		997,412
三井住友信託銀行		329,671
三井住友銀行		6,452,010
定期預金	26,695,000	
みずほ銀行		6,695,000
りそな銀行		10,000,000
三井住友信託銀行		10,000,000
未収金	0	
立替金	0	
仮払金	0	
生協出資金	15,000	
合計	**47,807,131**	

負債・積立金の部

勘定科目	金額	
未払金	0	
預り金	20,000	
前受金	2,430,000	
年会費（正）		145,000
年会費（正）		25,000
年会費（学）		2,260,000
事務費準備金	532,500	
OA機器更新準備金	337,875	
積立金	26,000,000	
特別積立金	8,144,482	
早稲田建築合同ｸﾗｽ会運営基金		6,844,482
周年事業積立金		1,200,000
支部活性化支援金		100,000
決算収支差額	10,342,274	
合計	**47,807,131**	

収支計算書

●収入の部

単位：円

勘定科目	年予算		実績金額		予算実績差額	
【会費及び入会金】	11,725,000		8,910,000		▲2,815,000	
年会費（正）		10,000,000		8,845,000		▲1,155,000
年会費（協・個人）		15,000		25,000		10,000
学生会費		1,700,000		10,000		▲1,690,000
入会金（協）		0		20,000		20,000
年会費（協・法人）		10,000		10,000		0
【維持費】	3,015,000		2,965,000		▲50,000	
維持費（正）		3,000,000		2,950,000		▲50,000
維持費（協）		15,000		15,000		0
【寄附金】	0		0		0	
寄附金		0		0		0
【活動に伴う収入】	3,254,900		2,614,900		▲640,000	
広告収入		1,054,900		1,054,900		0
名簿収入		0		0		0
総会懇親会費		0		0		0
新年会参加費		210,000		0		▲210,000
OB仕事紹介出展費		1,800,000		1,470,000		▲330,000
建築学会選挙経費		90,000		90,000		0
その他活動収入		100,000		0		▲100,000
【資産から生じる収入】	2,300		1,944		▲356	
受取利息		2,300		1,944		▲356
【その他収入】	0		0		0	
雑収入		0		0		0
小計	17,997,200		14,491,844		▲3,505,356	
【繰越金】	10,669,622		10,669,622		0	
前年度繰越金		10,669,622		10,669,622		0
収入合計	**28,666,822**		**25,161,466**		▲3,505,356	

●支出の部

単位：円

	勘定科目	年予算		実績金額		予算実績差額	
活動費	【会　員】	1,750,000		496,534		1,253,466	
	会員会議費		400,000		7,370		392,630
	名簿整備費		220,000		260,682		△40,682
	OBによる仕事紹介		1,100,000		228,482		871,518
	会員委員会費		30,000		0		30,000
	【広　報】	5,820,000		5,688,621		131,379	
	早稲田建築ニュース発行費		3,600,000		3,579,905		20,095
	イヤーブック発行費		2,000,000		2,023,928		△23,928
	ホームページ・メルマガ運営費		150,000		84,788		65,212
	広報委員会費		70,000		0		70,000
	【事　業】	980,000		372,740		607,260	
	見学会・セミナー開催費		300,000		217,409		82,591
	稲門建築ライブラリー		500,000		0		500,000
	事業関連整備費		50,000		0		50,000
	WAAアーカイブス		100,000		155,331		△55,331
	事業委員会費		30,000		0		30,000
	【総　務】	2,254,000		1,417,265		836,735	
	総会開催費		50,000		54,294		△4,294
	支部活動費		700,000		700,000		0
	支部活性化支援金		200,000		100,000		100,000
	学生補助金		900,000		200,000		700,000
	顕彰制度運用費		82,000		70,576		11,424
	特別功労賞		*40,000*		*39,996*		*4*
	稲門建築会賞		*32,000*		*30,580*		*1,420*
	賞状関係		*10,000*		*0*		*10,000*
	学会選挙		182,000		179,233		2,767
	会費等納入促進費		10,000		50,048		△40,048
	既刊行物調査・整備費		100,000		63,114		36,886
	総務委員会費		30,000		0		30,000
	【活動運営費】	1,542,000		1,183,461		358,539	
	会議費		200,000		144,794		55,206
	旅費交通費		350,000		6,120		343,880
	印刷費		300,000		394,842		△94,842
	支払手数料		380,000		325,705		54,295
	周年事業準備金費用		300,000		300,000		0
	諸経費		12,000		12,000		0
	活動費計①	12,346,000		9,158,621		3,187,379	
運営費	事務費		4,500,000		4,669,123		△169,123
	PC環境整備費		150,000		0		150,000
	通信費		100,000		145,952		△45,952
	交通費		300,000		268,082		31,918
	慶弔慰費		50,000		41,517		8,483
	消耗品費		20,000		11,449		8,551
	雑費		20,000		8,886		11,114
	事務費準備金費用		95,000		95,000		0
	OA機器更新準備金費用		150,000		150,000		0
	運営費計②	**5,385,000**		**5,390,009**		**△5,009**	
予備費計③		**9,450,740**		**270,562**		**9,180,178**	
支出合計（①＋②＋③）		**27,181,740**		**14,819,192**		**12,362,548**	
本年度収支差額		—		**(327,348)**		—	
決算収支差額		—		**10,342,274**		—	
合計		—		**25,161,466**		—	

決算処分案

決算収支差額	**10,342,274**	円
次年度繰越金	**10,342,274**	円

二〇二〇年度会費&維持費納入者（五〇音順）

会費に加え、維持費にもご協力を賜りました。

●7口●
高部素行
山崎隆盛

●6口●
杉谷文彦

●5口●
村松映一

●4口●
太田隆信
神山幸弘

●3口●
石井敦
石田緯男
岩田穰
上野毅
大内政男
小林曉男
尾島俊雄
柴田寛二
徳田健次
藤原佐吉
穂積信夫
安恒忠男
山崎隆盛

●2口●
飯塚正義
猪狩達夫
石福昭
板谷薫
井手洋一
梅澤隆
梅村龍太
遠藤京太
大塚唯雄
奥村珪一
神谷充広
亀井忠夫
川本明生
川元良夫
木村建一
木村聡志
合田信雄
小林幹雄
近藤正一
斉藤康弘
島野良之右
清水里司
鈴木恂
田中桂治
土田充義
外岡豊
中川敏哉
中川統夫
中西将久
中西靖直
新妻優輔
西豊彦
長谷見雄二
畑埜亮介
藤本健
藤森通弘
溝部廣道
本村武利
盛勝昭
森口武男
矢部明良
山根三郎
與謝野久
渡沼健一
渡部泰一

●1口●
相田武文
青木明彦
青柳隆之
青柳剛
青柳幸人
秋山寿郎
阿久津壽
浅野忠利
芦川進
阿部康人
新井精一
荒城昭和
荒能孝司
粟野善治
安齊真吾
安藤紀雄
伊香賀俊治
伊沢久
石井健一
石井弘美
石川巧
石川智一
石川廣三
石川晶一
石塚章男
石橋俊明
泉修三
磯部雅男
板井克真
板橋久雄
板谷敏正
市川徹
市川秀紀
市川雅紀
出田晴彦
伊藤滋
伊藤修二
伊藤誠三
伊藤隆実
伊藤得平
伊藤俊男
伊藤文昭
伊東賢伸
伊藤由佳
伊藤力雄
稲葉秀行
井上波彦
井深誠
井本健一
岩田誠二
岩本滋昌
上田真
上原昭彦
笛吹清志
卯月盛夫
梅野岳
漆畑訓明
江川直樹
海老根哲郎
江間吉洋
遠藤勝勧
遠藤精一
大鐘梨湖
大木紀通
大杉文哉
大竹秀興
大西敏夫
大野晴偉
大平嘉行
大村進
大山尚男
岡田隆行
尾形達夫
岡田孝生
岡部憲明
岡村新司
岡本茂
岡本英徳
岡本宏
岡本隆之祐
小川晃
小川重夫
小川誠一
小川有子
奥平与人
奥村晶彦
奥本浩介
筬島亮
納新二
小田和正
織田直憲
落合千秋
鏡太紀
鍵屋浩司
景山悠太郎
笠井香澄
片山篤
勝田典男
桂純二
加藤隆之
加藤達夫
加藤光一
加藤宏生
加藤泰
金井俊夫
金岡伸幸
可児才介
金子寛明
嘉納成男
鎌腰勝
鎌田勝
上村一人
亀井富延
亀田公太郎
賀持剛一
川上恵一
川北喜久
川崎瓊也
川角喜一
川澄吉夫
川瀬俊二
川原義直
河村寛二
菊嶋秀生
菊地守
鬼澤仁志
木村美樹雄
木村由布子
清田太三
久慈次男
楠本玄英
國信主馬
久保田聡
栗原弘一
栗原修三
車戸城二
黒川雅之
黒田和彦
桑形幹
見城美枝子
小泉敏博
小泉文之
鯉渕要三
郷正明
河野好伸
小菊健司
輿石直幸
小島哲夫
小島将志
兒玉謙一郎
小玉博嗣
後藤春彦
小畑晴治
小林修一
小林昌一
小林進治
小林紳也
小林善一
小松壽
小松崎通敏
小室憲生
近藤一郎
齋藤繁喜
斉藤民樹
坂本周一
佐川貴康
佐久間康文
佐々木裕志
佐々実
佐藤英治
佐藤滋
佐藤淳也
佐藤立美
佐藤光宏
佐藤雄二
佐藤能成
佐土原聡
佐野次雄
澤柳伸
椎谷清志
重村力
重村正典
地主道夫
篠根哲典
柴田いづみ
柴田知彦
柴山寿仁
渋谷哲生
島津護
清水信行
清水博
下田濟二郎
下村憲一
首藤亮一
新村達也
須賀和子
菅野星来
菅家靖夫
菅原大輔
菅原道雄
菅原良太
杉村憲司
椙山健治
杉山吉信
鈴木啓史
鈴木裕幸
鈴木佑妃
鈴木裕
鈴木了二
須永修
鷲見和重
住田悟良
周山達尊
関根宏
世良耕作
宗慎治
宗我昭
十川治江
曽根伸穂
染谷哲行
堂城直人
高砂正弘
高野恭輔
高橋可奈
高橋俊一
高橋工
高橋信之
高橋久光
高橋泰一
高緑一行
多川勝之
田熊隆樹
竹内俶
竹内淳二
武田勤
田尻哲司
田中一成
田中純子
田中秀樹
田中啓文
田中隆吉
谷岸淳一
種村尚之
田淵将也
玉村光平
田村直久
田村正美
田村幸雄
丹田天平
月本康之
白俊彦
都築充雄
坪井浩一
坪内幹雄
寺村彰
照沼聡
富樫亮
土岐昇三
鴇田隆
戸塚泰宏
戸沼幸市
富川信一郎
富田昌広
富塚兆弥
豊川士朗
豊田博康
中江滋
長雄春夫
中川淳
中川建
中川修一
長澤護
中澤泰彦
中島秀則
中田幸男
中西隆之
中野順哉
長野泰介
中野久夫
長野恒
永橋進
仲摩和雄
中村勝
中村光彦
中村義幸
中山好子
西尾啓一
西川新八郎
西原康之
西村富夫
根岸英子
根橋宏次
野口久
野口正博
野尻武彦
野原文男
野村裕司
野呂幸一
橋詰尚慶
橋本公佑
橋本忠篤
長谷川誠
長谷山勝美
畑稔行
波多野進
花堂直和
花本尚樹
羽田正沖
馬場璋造
浜田明彦
林昭男
林賢語
林泰資
原篤輔
原田都木子
原田善榮
東澤文
樋口久吾
平倉章二
平野忠昭
平野誠
平野正男
平山武志
蛭川哲夫
比留間基晃
廣兼周一
廣木邦明
廣田裕介
深谷俊則
福田裕
福田陽一
藤岡達也
藤津則雄
藤野隆至
藤村正
藤山邦彦
古谷誠章
保科義和
細川博史
細野晟史
堀川洌
本多圭司
真喜志卓
牧村功
増田幸宏
松浦晋
松尾賢治
松岡昭吾
松岡泰史
松下克也
松下雅宏
松田はるか
松田英文
松永巖
松永純雄
松永均
松原茂高
松原知三
松本真樹
松山美奈夫
馬淵喜全
間宮史郎
丸田信重
丸山昭夫
丸山茂生
丸山浩
三沢亮一
三島辰雄
三島寿紀
溝口清
道本佳明
三原宏之
宮川明
三宅俊明
三宅博史
宮崎昌二
宮嶋誠一
宮田哲治
宮本仁夫
向井隆晃
武藤和幸
武藤清
村井潔
村井謙介
村上公一
村田麟太郎
村山最二郎
森欣貳
守英雄
森保太郎
森園安男
森田瑞葵
森田芳憲
森永由美
守屋繁充
森山正和
両角光男
八木佐千子
矢島勇夫
柳沢國男
柳澤芳夫
柳田崇貴
山口広嗣
山口洵
山崎一彦
山崎淳
山田眞
山田宗克
山中康廣
山本靖一郎
杠一義
横河鉄彌
横田考俊
横田稔
横山朋之
吉川由
吉柴幸夫
吉田尚夫
吉田襄
吉田六左ェ門
米満光平
四方照雄
若松孝旺
渡邊章亙
渡辺明
渡部隆夫
渡辺務
渡辺仁史
渡辺浩文
和智信二郎
割田正雄

二〇二一年度稲門建築会役員一覧

＊は新任役員

会長
亀井忠夫（苗S52）㈱日建設計＊

副会長
田辺新一（苗S57）早稲田大学＊
車戸城二（苗S54）㈱竹中工務店
杉谷文彦（苗S55）㈱梓設計＊

総務
委員長　齋藤俊一郎（苗H02）㈱竹中工務店
副委員長　野村祐造（苗H03）鹿島建設㈱
武田勤（苗S57）㈱松田平田設計
理事　野口久（苗H03）国土交通省
粟野寿朗（芽H17）山芳建設㈱
西尾薫子（苗H05）㈱大林組
小室正章（苗H04）㈱NTTファシリティーズ＊

会員
委員長　飯岡方春（苗S63）㈱梓設計
副委員長　小谷竜士（芽H14）小谷建築設計㈱
後藤邦彦（苗H12）東京電力エナジーパートナー㈱
理事　堀圭吾（苗S63）大成建設㈱
依田晋一郎（苗H02）㈱日本設計
渡邊大志（苗H15）早稲田大学
斉藤貴城（苗H17）積水ハウス㈱
伊藤玲央（苗H15）㈱山下設計
柳清隆（苗H25）東京建物㈱
大西宏明（苗H05）清水建設㈱＊
安田健一（苗S63）㈱三菱地所設計＊
添田貴之（苗H09）㈱添田建築アトリエ＊
水澤明人（芽S63）㈱新中央設計東京＊
稲葉愛永（修士2年）田辺研＊
学生理事　藤井香菜子（修士2年）田辺研＊

事業
委員長　浅見邦一（苗S62）鹿島建設㈱
副委員長　石川修次（苗S62）㈱竹中工務店
三宅奈美（苗H01）㈱佐藤総合計画
理事　海老原靖子（苗H08）㈱久米設計
井深誠（苗S63）大成建設㈱
神田篤志（苗H15）㈱日建設計
堀池隆弥（苗H05）㈱大林組
牧住敏幸（苗H04）清水建設㈱
篠﨑亮平（苗H12）㈱山下設計
加藤詞史（苗H01）㈱加藤建築設計事務所
学生理事　中尾直暉（修士2年）吉村研

広報
委員長　兒玉謙一郎（苗H02）㈱久米設計
副委員長　小林恵吾（苗H14）早稲田大学
中川優一（苗H18）㈱日本設計
理事　川村浩（苗S63）㈱三菱地所設計
廣岡勇輝（苗H19）前田建設工業㈱
風間健（苗H24）鹿島建設㈱
濱中直樹（苗H04）合同会社ハマナカデザインスタジオ＊
多賀谷匠（芽H28）㈱村松デザイン事務所＊
壹岐尚史（院H24）前田建設工業㈱＊
本郷太郎（苗H19）㈱日建設計＊
学生理事　上田留理子（修士2年）小林研＊
後藤佑美（修士2年）早部研＊

事務局
事務局長　鴇田隆（苗S48）稲門建築会

監事
金子寛明（苗S58）新菱冷熱工業㈱
羽田正沖（苗H16）戸田建設㈱

幹事
建築学科　万長城（院H27）早稲田大学助手
深和佑太（博R05）早稲田大学助手＊
芸術学校　西川日満里（苗H21）早稲田大学芸術学校＊

合同クラス会
実行委員長　田中智之（苗H06）熊本大学

一一〇周年記念特別委員会
実行委員長　田名網雅人（苗S55）鹿島建設㈱

評議員会
会長　古谷誠章（苗S53）早稲田大学
早苗会　重村力（苗S44）㈱いるか設計集団
清水和彦（苗S53）三機工業㈱
田名網雅人（苗S55）鹿島建設㈱
賀持剛一（苗S58）㈱大林組
加藤永（苗S58）一般社団法人民間都市開発推進機構
矢口則彦（苗S53）大成建設㈱＊
郡公子（苗S54）宇都宮大学 名誉教授＊
鯵坂徹（苗S56）鹿児島大学＊
輿石直幸（苗S63）早稲田大学＊
中北英孝（苗S60）㈱NTTファシリティーズ＊
稲芽会　萩原剛（苗S58）早稲田大学芸術学校
松尾宙（芽H10）二級建築士事務所アンブレ・アーキテクツ
支部　生田昭夫（友S45）堂計画室
松田英文（苗S51）りゅうでん㈱

支部長
北海道　染谷哲行（苗S48）アルクム計画工房
東北　菊池健二（苗H04）東北電力㈱
信越　新井精一（苗S50）千広建設㈱
北陸　篠島弘男（苗S54）富山県建築設計監理協同組合
静岡　大瀧敬久（苗H19）㈱大瀧建築事務所
中部　松田英文（苗S51）りゅうでん㈱
近畿　重村力（苗S44）㈱いるか設計集団
中国　生田昭夫（友S45）堂計画室
四国　田口太郎（苗H11）徳島大学
九州　金岡伸幸（苗S37）

主な会務の報告

二〇二一年四月～

〔会議〕Web開催

20年度
■第4回理事会…4／16

21年度
■春の大会（通常総会・特別講演・懇親会）…5／28
■第1回理事会・第1回評議員会…6／25
■支部長会議…7／2
■第2回理事会・第1回職域幹事会…9／10

〔活動〕
■大学・大学院学位授与式（大内会長出席）…3／26
■芸術学校卒業式（亀井副会長出席）…3／26
■新入生学科別ガイダンス（事務局長出席）…3／30
■芸術学校入学式（車戸副会長出席）…4／1
■新2年生学科別ガイダンス（事務局長出席）…4／3
■新入生大隈ガイダンス（大内会長出席）…4／15
■メールマガジンの発行…4、5、6、7、9月号
■イヤーブック「WA2021」の発行…4／15
■早稲田建築ニュース111号の発行…4／15
■共創ワークショップ演習　講師派遣…4／12、19

事務局便り

2021年度の活動も後期に入りました。皆さんホームページはご覧になりましたか。住所変更や会費納入がとても簡単にできるようになりました。また、会員からの投稿もし易くなるよう改良中です。今後は毎月配信するメルマガを、文字中心から画像を多く取り入れたものに変更しようと考えています。この機会に皆さまのアドレスの登録と会費納入をお願い致します。

鴇田 隆（事務局長／苗S48）

訃報

左記の方がお亡くなりになった旨、事務局にお知らせいただきました。謹んでご冥福をお祈りいたします。

2021年3月1日～8月31日受付分

大村道夫（苗S05）逝去日不明
鹿児島原信（苗S24）2017.11.18
藤谷光弘（苗S25）2020.6.8
平田正夫（苗S26）逝去日不明
谷龍治（苗S26）2019.7.28
月岡淳（苗S26）2021.3月
寺本俊彦（苗S27）2021.5.3
佐藤清（苗S28）2018.1.4
須田節男（苗S28）2014.5.25
戸田哲（苗S28）2016.5.25
中里正雄（苗S28）2019.2.12
山田正則（苗S28）2021.4.13
藤森通弘（苗S29）2020.1.15
原田茂世（苗S29）2021.1.28
石垣祐輔（苗S30）2020年
石井洋（苗S32）2021.3.21
小山田善次郎（苗S32）2021.1.8
藤井安（苗S32）2021.1.31
鶴田日夫（苗S33）2020.3.17
赤星晃一（苗S33）2019.10.25
井上昌三（苗S33）2019.9.20
工藤恒男（苗S34）2021年1月
佐藤勝也（苗S34）2019.6.5
谷弘志（苗S35）2021.6.28
依田定和（苗S35）2021.1.3
黒須昌秀（苗S36）2020年末
嵐田研（苗S37）2020.12.1
飯野丘（苗S37）2020.10.9
木元剛三郎（苗S37）逝去日不明
田中義吉（苗S37）2021.3.11
小池光政（苗S38）2020.1.5
村松映一（苗S38）2021.8.2
阿部光成（苗S38）2021.1.24
池田斉（苗S39）2021.2.9
笠井章而（苗S39）2020.9.28
坂本登（苗S39）2020.5.28
藤井松雄（苗S39）2020.9.18
横川二郎（苗S39）2021.4.19
秋山克己（苗S40）2021.3.28
片岡靖夫（苗S40）2018年9月
東直彦（苗S41）2021.5.10
新井達彦（苗S42）2021.7.18
石田宏（苗S42）2021.3.26
東紘宇（苗S42）2019.11.11
永田康彦（苗S44）2020.12.3
島本昂治（苗S45）2021.4.29
高橋貞次（苗S49）2021.6.14
寺島和彦（苗S49）2021.8.5
湯川健一（苗S52）2009.11.11
志村浩之（苗S62）2021.1.21
大石満（院S39）2021.2.7
金子秀市（友S15）2019.4.30
橋爪弘喜（友S31）2020.5.24
斉藤新平（友S32）2020.3.3
杉本勝（友S40）2019.10.22
河村達雄（工S23）2017年
近藤末男（工S26）2020.4.15
北岡昭（甍S23）2009.3.17
河合清（甍S24）逝去日不明
吉澤幸夫（甍S24）2020.5.21

編集後記

会長の交代を機に今回よりタイトル部分を少し改善し、巻末に稲門建築会の紋章を入れ、皆さまにより多く情報を届けるために報告の数を少し増やしました。是非お楽しみ下さい。

兒玉謙一郎（広報委員長／苗H02）

News of WASEDA Architecture
No.112
2021年10月15日発行
発行者＝稲門建築会会長：亀井忠夫
編集者＝稲門建築会広報委員会
（委員長：兒玉謙一郎）
発行所＝稲門建築会
〒169-8555
東京都新宿区大久保3-4-1
早稲田大学55号館S棟402
電話・ファックス
03-3208-0640
HP＝https://www.toumon.arch.waseda.ac.jp/
Email＝wap@toumon.arch.waseda.ac.jp
制作＝株式会社建築メディア研究所
フォーマットデザイン＝岡﨑真理子

ⓒ稲門建築会